

英語

出題の傾向

長文問題・会話の問題・文法問題・文の書き換え問題・語句の並べ替え問題・語彙の問題・発音・アクセントの問題・英作文等、様々な形式に基づいた出題となっています。中学校での既習内容を踏まえた問題がほとんどで、基本的な単語・熟語・構文力を身につけておけば特に難しいものではありません。配点上、長文問題が多めの点数を占めていますので、決められた時間内に長文を読み、その内容を理解する読解力が重要となります。

2020 今年度の出題と解説

① 長文問題

長文を読み、総合的な英語力を試す問題です。今年度は昨年度のEメール文のやりとりから会話文へ変更しました。「日本と海外の電車に関する文化の違い」がテーマであり、話の流れを踏まえながら、英文の内容をていねいに把握できているかどうかを試す問題です。

問1 内容一致の問題です。全体的な正答率は悪くなく、英文を読み取れていたように思います。ただし、bは“*Oh,...we almost missed it.*”を「乗れなかった」と間違えたためか、正答率が良くありませんでした。

問2 例年出題している英問英答形式の問題ですが、正答率は良くありません。答え方に慣れていない受験生が多く、文ではなく単語だけで答えていました。S（主語）+V（動詞）をきちんと使って答えるようにしてください。(1)ではWho was late?に対してItを主語にした解答が多く、何が主語として相応しいのかを理解していない答案が見られました。

問3 本文中の語句を日本語で説明する問題です。正答率は高く、普段から本文全体の意味を理解しながら読んでいる受験生には簡単な問題であったと思います。

問4 下線部のthatが指す内容を日本語で答える問題です。指している箇所は理解していても、「日本で」という具体的内容を省いた答案が見られました。

問5 文脈に合う英文を3語以上で答える問題です。内容は平易で、「*I'm so sorry.*」など、柔軟な解答が可能な問題でした。ただし、条件である「3語」というのを見落として、「*I'm sorry.*」などと解答している答案が多く見られました。会話文では、誰がどのような発言をしているのかを理解することが大切です。また、途中で場面が変わる場合もあるので、英文を見てしっかりと状況を把握しておきましょう。今年度の問題は英文の流れをきちんと把握できているかを確かめる問題を多く出題しました。普段の授業でも1文だけに着目するのではなく、文全体でどのような話の流れになっているのかを理解することが大切です。

② 文の書き換え問題

昨年とほぼ同じ難易度の問題でした。(1)は play、(2)はaskのように、3人称単数現在形のs、過去形のedを付け忘れるなど、ケアレスミスをしている答案が多くありました。(3)はas not、(5)は文頭を大文字にできていない惜しい答案がありました。

全体的に基礎的な問題ですので、ケアレスミスをしないようにしましょう。教科書や問題集、過去の入試問題などを見て、同じような意味を表す文をまとめて整理しておきましょう。

③ 語句の並べかえ問題

与えられた語句をすべて使用せずに書く答案が見られました。また、並べることはできているのに、写し間違えたために減点とされた答案も多くありました。(1)ではusuallyの位置、(2)ではThere isの文、(4)ではtell meを最後に置くなど、文型を理解できていない答案が多くありました。

語句の並べかえ問題では、日本語を参考にどのような文法が問われているのかを考え、語を並べていきます。出題されている問題のレベルは決して高くないので、文法問題集等で頻出の問題を練習しておきましょう。教科書に載っている重要例文を暗唱して使えるようにしておくことも非常に大切です。

④ 会話文の問題

(3)のみ正答率が低い結果になりました。電話対応をしている人物が変わっていない点、“*Yes, I am.*”では受けられない点を理解する必要がありました。

会話問題は、話の流れをイメージすることが大切です。教科書や問題集などを参考にして、決まり文句のような基本的な会話のやり取りを身につけておきましょう。

⑤ 語いの問題

毎年基本的な単語を出題しています。(1)(2)の月と曜日はほぼ毎年出題していますので、確実に書けるようにしておきましょう。(3)は昨年度の過去問題に引っ張られて、ear(s)をeye(s)としている答案が目立ちました。

単語の定義が英語で示されています。短い英語を正確に理解することが大切です。また、教科書に出てくる単語は意味を覚えるだけでなく、必ず書いて練習しましょう。

⑥ 空所補充問題

教科書レベルの基本的な文法力や語彙力を試す問題です。(2)のgone to とbeen toの違いを問う問題は、多くの受験生がよく理解していました。逆に、(3)のbyとuntilの違いはあまり正答率が良くありませんでした。一見すると同じような意味でも、実は大きな違いがある語をきちんと理解しておきましょう。

⑦ ⑧ アクセント・発音の問題

よくできていました。今年度も基本的なアクセント・発音を出題しています。日頃、英文を読むときに発音を意識し、音読することを心がければ、この種の問題への対応がしやすくなります。

⑨ 英作文の問題

例年通り、条件を示した上での自由英作文を出題しました。今年度は長文問題の中に英作文を出題したため1題減少しました。

今年度は「相手に、学校に来る方法」を問いました。HowではなくWhatを使用する解答と、youではなくIを使用する解答が見られました。

英文が出来上がったら、必ず全体を見直しましょう。疑問文なので文末の?マークは必ず必要です。

解答例を見れば分かるように、決して難解な問題ではありません。正確な英文をきちんと書けるようにしておくと共に、基本的な表現・語句がどのような状況で用いられるのか、日頃から意識して学習するようにしておきましょう。

対策と アドバイス

難解な問題がほとんどなく、教科書や学校で使用する問題集を中心に勉強しておけば十分対応できます。定期考査や実力問題で出題された問題を復習すると共に、教科書に出てきた単語、熟語、重要文を理解して、徹底して暗記しておいてください。また、英問英答問題の練習が不足していると思われる解答が目立ちます。教科書や問題集の問いに英語で答えられるように練習しましょう。長文問題が苦手な受験生は、まず教科書の英文を読み、その内容が確実に理解できるようにしておいてください。過去の問題集を解いて慣れておくことも大切です。最後に、英文に接する際には必ず音読をする習慣を身につけておきましょう。また、単語も音読し、書いて覚える勉強法を実践してください。